

ほうでえ～

ありゃ～のう

周防大島町の話題

平和を願う「戦艦陸奥慰霊祭」

6月8日、戦艦陸奥殉難将兵慰霊祭が油田農村環境改善センターで行われ、全国から遺族や関係者約90人が参列し、犠牲者の冥福を祈りました。

慰霊祭は東和陸奥顕彰会の主催で毎年この日に行われているもので、式では顕彰会会長の椎木町長が「平和に対する悲願が、後世に受け継がれていくことを心から願う」と追悼のことはを述べました。

戦艦「陸奥」は、76年前の昭和18年6月8日、伊保田沖約3kmで原因不明の爆発で沈没。乗組員1474人のうち1121人が犠牲になりました。



▲慰霊祭の様子（顕彰会会長としてあいさつする椎木町長）



▲戴帽式の様子

患者さんに寄り添った看護を

6月14日、大島看護専門学校で戴帽式が行われました。2年生41名には、山本幸子学校長から1人1人にナースキャップ（男子学生にはポケットチーフ）が与えられました。

ナイチンゲール像から灯りを受け取った学生たちは、これから始まる本格的な実習の前に、強く誓いのことはを斉唱しました。

プールでセーリングを体験

6月29日、B&G海洋センタープールでOPディンギーと呼ばれる小型ヨットの体験会があり、小学生17人がセーリングに挑戦しました。

子どもたちは、大型の扇風機で起こした風を帆に受けて進むセーリングを楽しみながら学んだほか、ロープワークやカヌー体験も行いました。

体験会では、水の安全教室も行われ、水辺で事故を起こさないために気をつけることや、事故が起こった時の対処法なども学びました。



▲風の方で進むセーリングを体験